

「そしある」さん 第 0号

2025/10/01 発行 編集担当：樋口

●沖縄県医療ソーシャルワーカー協会は37歳！！

沖縄県医療ソーシャルワーカーの会が、1988（昭和63）年10月7日に設立されてから、2025年は37年目を迎えます。

設立時の協会名は、沖縄県医療ソーシャルワーカーの会で、設立時の会員数は9人（7病院、2施設）でした。設立時の会長（職種）は、比嘉 康江さん（沖縄協同病院：医療ソーシャルワーカー）です。

県内でMSWが配置され始めたのは1980年代中頃で4～5人いましたが、1988（昭和63）年当時、既に50人以上の会員を擁し活動していた沖縄県精神医学ソーシャルワーカー協会長（安里 千代子氏）の呼びかけで9人（7病院2施設）が集まり、会を発足しました。

●「そしある」さん（名前の由来）：はじめに、コラムの名称「そしある」さんは、那覇市立病院のMSWニュースとして2012年から約2年間、23号まで発行していた名称を引き継ぎました。公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会が、東日本大震災災害支援の拠点としている石巻事務所で活動しているMSWを、住民の皆さんが、「そしある」と親しみを込めて呼んでいます。阪神淡路大震災のときも、そう呼ばれたことがあるようです。MSWニュースの名称を決めるにあたり、石巻で活動している元東京都MSW協会長の武山ゆかり氏から、「私たちが必要としてくれる人々から、自然呼称として発生した名前だからこそ意味があると思います。」とコメントをいただき名づけました。（2012年10月1日那覇市立病院MSWニュースより）>

●あれから30年！MSWが長期入院（？）することになった経緯について

0号は、私事ですが入職当時のことを書きます。各病院のMSW所属部署には歴史があると思います。その歴史を知ることは、MSWのポジショニングを考える上で大切だと思うからです。

私が那覇市立病院に就職したのは、1989（平成元）年3月です。その前に、1986（昭和61）年5月精神科外来開設、1987（昭和62）年4月内科病床で対応可能な精神科患者の入院受け入れをすることになり、精神科からMSWの配置要望が出ていました。また医事課からも、専従正職員のMSW配置要望が出されていました。業務の継続性や専門性確保のために、市役所からの職員の異動ではなく、病院での採用を要望していたとのことでした。当時の関係者は、MSWの必要性の根拠や病院採用の意義、また公募の準備等、色々なネゴシエーションで苦労したと聞いています。

県内公立一般病院で初めての正職員MSW配置に対して、沖縄県精神科ソーシャルワーカー協会から、「SW配置に伴う位置づけや環境整備等の要望書」が出されたり、新聞記事にもなるくらいでした。

その後、県立5病院へMSW正職員各1人の配置が実現するのは、2015年4月のことです。現場から毎年のように増員要求が行われ、2024年度現在の定数は12人になっています。

人が仕事を選ぶ時、何が影響するのでしょうか？実は、私が1983（昭和58）年に大学院を修了し、就職活動で那覇市立病院を訪ねた時、履歴書を見た院長は「そんな職種はありません、..」とおっしゃいました。そのため、民間の単科精神科病院で仕事をスタートさせた経緯があります。その約7年後には那覇市立病院に就職することになるので、仕事は時代が創るものでもあると感じます。

最初に配置された医事課では、社会人としての常識や組織的な仕事の方法を身に付けておらず、いつもトンチンカンな発言や行動をしていましたが、心の何処かにく福祉職なのだから、医療職や事務職とは違うことを言わなきゃ！>という気持ちがあったように思います。それから30年間、所属部署は変わっていきませんが、MSWとして長期入院（？）することになるのでした。

●MSWのつぶやき（編集後記）：0号は、私事ばかりになってしまいました。2025年10月は、那覇市立病院が建て替えられました。これで県内の急性期病院のほとんどが建て替わったと思います。新たな環境で気持ちも新たに仕事ができますね。内容に関するご意見・ご要望もお寄せ下さい。●連絡先：m.higuchi@oki.ac.jp